

No.137

ム、民、館、だ、よ、り

平成21年11月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

選挙とメディアの関係

由良地区公民館長 枝川 隆亮

財団法人 明るい選挙推進会
から平成二十年度中央研修会講演録が配布されましたのでその一部を紹介します。

アメリカ大統領選挙に見る メディアと政治――

(東京大学大学院情報学科学環
長石田英敬氏の講演より抜粋)

現在は、テレビはもちろん、携帯電話やインターネットなど人々の生活とメディア（媒体。手段。マスコミニケーションの媒体——広辞苑）との関係が非常に複雑な関係になつていま

す。とても複層的な色々なレベルにまたがつた関わりを持つていて、ほとんど朝起きてから夜寝るまで、いろいろなメディアに接した生活を人々がするようになつて、かなり時間が経過しているわけです。

政治も私たちの生活の重要な一部も、当然いろいろなメディアからですので、政治についての情報も受け取るということになつてきます。そうすると、メディアがどのような機能をもつているのか、どのような働きを持っているのかということを知らないと政治の動きが追えない。

そういうことが世界的に色々な形で起こつてきているわけですね。テレビを見ていると、日本語の番組ばかりなので、みんなは「日本の番組を見ている」と考えていると思います。

たしかに、出てくる人は日本語を話す、あるいは日本人ではなくとも日本語を話す。番組も日本語で行われているので、日本語で見ていると思われるかもしれません、私たちがテレビを見ている番組のかなりのものは、実は世界共通のものです。例えば、クイズ番組や様々なドラマなどは、ライセンスと言いますが番組のつくり方のノウハウを世界的に売っています。世界的に輸出したり輸入したりしています。番組のつくり方自身は世界的にやり取りされています。ライセンスを買って、テレビが番組をつくっているので、世界的には実は同じものを見ていています。

それぞれの国で自分の国の番組を見ていると思っています。外国に行かれるとき思いますが、言葉がわからなくて困ります。知らない国に行ってホテルでテレビのスイッチをひねつたりすると言葉がわからなくてもだいたいわかることが多いです。それは、番組の枠組み自体が共通しているからです。

政治が支持層を失い、日本で無党派層と言われますが都市型の浮動する選挙民たちが主流になつてきています。そして、それらの人たちはメディアからの影響力を非常に受けやすく、感受性が高い人たちなので、そういう番組と親和性があるキャラクターの人が出でると上手く対応できるわけです。アメリカの大統領選挙は、アメリカにとって重要なのではなく、世界の民主主義にとって非常に重要なものです。

もちろんアメリカという国が大国であると言ふことがあります。しかし、単に政治のやり方を発明するという意味でもとても重要な意味を持つています。特に政治とメディアという関係を考える時には、なんといつてもアメリカの政治、特に大統領選挙が大きな節目になることがあります。それを私は「壮大な民主主義の実験場」と呼んでいます。どういう意味で実験場であるかというと、これはいってみれば、たとえは悪いのですが「武器の実験場」のようなものです。アメリカの大統領選挙は、ご存知のようにあらゆる意味で制限があります。お金が使えるなら、いくら使つてもいい。技術が使えるなら、どんな技術をつかつてもいい。ですから、資金が続く限りテレビコマーシャルを打ちることができます。それからインターネットも使い放題です。そして、あらゆる知恵を駆使して、新しい政治のやり方を開拓

し、それを実験して見せていました。こういう意味でいわば武器の実験と同じように、資金に制限を加えずに、あらゆることをやっています。日本ではお金などそういうことをやつていいのかという話もありますが、逆にアメリカはそういう制限を全部取り払っています。もちろん、これが持つてゐる論理的道徳的問題はあります。メディアと政治との関係からいふと、現在のメディアの技術を使って、どこまでなにができるかということが、はつきりと見える場面なのです。だからこそ、ここで開発された技術が世界各国の政治を動かしていくことになります。

「政治的説得のプラットフォーム」という言葉がありますが、アメリカ大統領選挙は主にどういうメディアを通して政治的な支持を取り付けるかという、メディアのチャンネルをテレビに焦点化することをずっと行ってきました。一九六〇年

以後、大統領選挙は、最終的にテレビを出口にして作戦が練られます。こうことで成り立つていています。日本でもメディアを活用する事が将来段階的に増えることが予想されます。

平成二十二年内には、参議院議員選挙・京都府議会議員選挙・宮津市長選挙・宮津市議会議員選挙が予定されています。政治に無関心ではなく、選挙をよく知り、よりよい暮らしや社会づくりに参加しましょう。私たちが、よりよい暮らしを願つて、私たちの代わりにその思いを実現してくれる人々を選ぶ制度が「選挙」です。

言いかえれば、私たちは、選挙をすることで、くらしや社会づくりに参加しているのです。だからこそ、選挙の事を正しく知ることが大切。自分の大切な一票を有効に生かすためにも。

相当長い講演録の中からごく一部を紹介しました。

先に、衆議院議員選挙が実施されました。これを見るとずつ

自分の意思をはつきりと
私は、ゆきます

行事 報 告

主 事 磐 田 充 亮

◎八月二十一日（土）

盆おどり大会（地蔵盆）

◎七月十二日（日）

四部対抗バレー ボール大会

第三十回大会を由良自治連合会と共催で開催しました。

今年は男女一二二名の選手でソフトバレー ボールを使用した九人制で実施しました。

今回は各選手打ちこまれたボールを多く打ち返しラリーが続き白熱した試合が多く見受けられ、応援にも熱が入り声援・拍手が絶えませんでした。

結果は男子二部と三部が勝ち数、セット勝ち負け数が同一で優勝決定戦で三部が勝ち優勝。女子は三部が十九回連続優勝を飾りました。

男子の部 女子の部

優勝	三部	三部
準優勝	二部	一部
三位	四部	四部
四位	二部	二部

◎八月十六日（日）

四部対抗ソフトボール大会

近年にない雨模様が続き、当日開催が困難と思われました。が、各部から一チーム出場トーナメント戦を行ないました。

各部とも年々選手の若がえりが見受けられ、小さなミスもありましたが、好守、強打の連續ボルを多く打ち返しラリーがで見事な試合でした。

特に優勝戦は第一部、第二部とも元、現野球部員を選手に入れ好プレーが続出し、同点で向えた最終回の裏センターを越えるランニングホームランで勝敗を決し、第一部が三年連続の優勝を飾りました。

結果は次のとおりです。

優勝	一部	三位	四部
準優勝	二部	四位	三部

◎九月六日（日）

由良地区運動会

今年は子供地蔵盆世話人会主催の地蔵盆を開催して十年になりました。記念大会として別々に開催していた盆おどりと地蔵盆を同時に松原寺で開催しました。

会場は提灯で飾られたやぐらを中心に模擬店を開き、多くの

競技種目の中に小学生やかわいい園児の競技を組入れ、近年にない多くの観客の中で競技が進められました。

参加者は由良踊り保存会の皆さんによる演奏に合わせ踊る人達や模擬店で楽しむ人達等が夏の夜の祭を満喫していました。特に浴衣姿の人で色々され、元気にはしゃく子供達が祭を盛りあげていました。

今年は記念にと親善訪問に來

いました。由した庄内由良小学校児童がデザインした燈籠と当地由良小学校児童作成の燈籠がお寺の門の左右に飾られ話題となりました。

総合成績 リレー成績

優勝	二部	二部
準優勝	三部	四部
三位	一部	三部
四位	四部	一部

今年は由良小学校、幼稚園との合同による運動会を開催しました。競技種目の中に入りかわり混戦となり、最後のリレーで順位が決まる緊迫した順位争いとなり、リレーの応援にも力が入りました。結果二部が制し、三年連続の総合優勝を遂げました。

今年コラボレーションしたことで賑わいが増し、今後地域に定着した行事として続けたいと思います。御協力お願いします。

次回から同運動会を毎年開催いたします。今回は皆様の御協力により盛大に開催することができます。次回も同様御協力ををお願いいたします。

思わず「ごめん」と声が出た

由良小学校校長 山本文雄

九月上旬に母がなくなつた。母は畑で野菜を作るのが大好きであった。

母の作る野菜は、とてもおいしく甘みがあつた。

時々、大阪の長女に送つてやるのだが、スーパーで買うものとは、一味も二味も違うそうである。

十一月に入り、丹後にカニのシーズンが来ると、神戸や大阪からカニを食べに観光客が来ます。その人々の中には、たまたま寄つた栗田で母の野菜を買う機会にめぐりあつた人がいたのです。

その人達は、それから毎年のように寄つてくださつて、大根、白菜、イモ、豆、をトランクにいっぱい買いこんで帰られる。

母の畑はいつも整理され、草も生えていなかつたのが、今年

いよいよイモ掘り。
そうこうしているうちに変な

気持ちになつてきた。

自分が母のようになつてきました、クワの持ち方、持つ場所、腰のまげ方まで母になりきつている。

クワを土に入れる時、少しクワを短く持つて、イモがないで

あらう所に静かに入れる。

イモの姿が少しでも見えるとしめたもの、その横を思いきり土を掘る。鳴戸金時は、四、五

本並んで、まつすぐに立つている。

掘つた穴にイモをよけていく。

そうは簡単に、にわか百姓にはできない。

イモを植えたのは、母であります。

自分ではない。

でもなんか変だつた。母になりました。夜は腰は痛むわ、ひじはしびれるわガタガタになつた。

十月に入り一畝だけ掘ることにした。

イモのつるをカマでとりのぞいた。

そして、

思わず
「ごめん」と声が出た。

大きなイモをクワが切つてしまっていた。真赤なイモに白い

大きなキズが入つてしまつた。母の作った土と太陽の光と自然の恵みで育つたイモ。

ごめん、ごめんと言って別のところに置いた。



十年目の子供地蔵盆を終えて

子供地蔵盆世話人会
濱本喜彦

今年も地区の皆様方のあたたかいご声援をいただきまして無事、子供地蔵盆を終えることができました。本当にありがとうございました。

さで、子供地蔵盆も今年で十回目を数えるに至りました。十年前小学六年生だった子供達は二十才をすぎた素晴らしい若者になり今年の地蔵盆に帰つて来てくれていました。この子達が近い将来結婚して子供をもうけ、その子達を連れて子供地蔵盆に参加してくれる。そんな十年前では夢のような事がそう遠くな一日に現実となりそうです。この子達が由良を拠点に生活を送つてくれたからさらに素晴らしいことです。その為にも未来の由良を諦めるわけには行かない！地蔵盆の活動を通して私が子供達から教わったことです。

者の方も「そうなんですよ！本当に夕日がきれいなんですよ」とこちらもニコニコしながら、子供達が話してくれた同じ説明を聞かせてくれた事を…。私は涙がこぼれそうになりました。『庄内由良の人達は大人も子供も故郷を想う心にまったくブレが無い素適な人達だなあ』と、同時に以前何年か前に今日とは逆で、丹後由良小が庄内由良小を訪問した際に同行された関係者の方が話してくれた事を想い出しました。それは『庄内由良の人達は我が由良小訪問団を小学校関係者どころか街をあげて大歓迎してくれたんだよ、つまり、庄内由良の人達は自分たちのルーツである丹後由良をとても大切にしてくれている人だなあと感動したよ…』と。

私は、あらためて、今回描かれた二枚の絵を見ながら想いました。それは、子供達が我が由良の風景を描かなかつたのは、日頃から、由良のことを意

識して生活していないからではないのか。それは子供達がわるいのではなく我々由良の大人達が日頃からあまり自分達が生活している故郷由良を意識して生活していないからではないのかと、子供達に日頃から由良の素晴らしさや守っていかなければならぬものを話して聞かせていれば、自然に子供達に郷土愛が育つて行くにちがいないと。それには、我々大人がしっかりと故郷由良を再認識して、この由良の風景や文化を守つていかなければならぬのではないかと。今回ほんのわずかな時間でしたが庄内由良の人達とふれあって、いろんな事を改めて考えさせられました。次回、庄内由良小の子供達が来られた時はぜひひ子供地蔵盆に遊びに来てもらおうと考えております。

最初は子供達を楽しませることがからスタートした子供地蔵盆ですが、その気持はこれからも変わりませんが、子供達を通して見えてることで、考えさせら

れることがたくさん有ります。この十年子供地蔵盆の活動をして強く感じたことです。子供地蔵盆世話人会と称しておりますが、何も子供達がいる親だけの会ではありません。子供達を通じて故郷由良を考える会でありたいと願っております。したがつて地域の方のご協力ご理解なくしては成り立ちません。お気軽に会に参加していただければ幸いです。そういう事も含めて今後も子供地蔵盆をよろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、由良が大好きで、大阪から由良に移り住んだ友人の日頃の口ぐせを書かせていただきます。

「本当に由良は素晴らしいところですよ！山があつて川があつて海もあるこんな素適なところはほかにありませんよ！ぼくは、そんな由良が大好きですね！」

由良宮本自治会

会長 井野義章

運動会雑感

先般の二年振りに開催された運動会において、我が宮本地区（第二部）は、勝利の女神に見初められて総合優勝三連覇、完全優勝二連覇という輝かしい成績を納めることが出来ました。野球に例えれば接戦の末のまさにこれは九回裏の逆転満塁サヨナラホームランでの劇的な優勝と言えるのではないでしょう。当夜の祝勝会は多数の地区民の参加の下、大いに盛り上がり、至福の一時を過ごしたことは申すまでもありません。これも単に選手や応援団の頑張りだけに止まらず、地区民一丸となつての渾身の助け合いや励まし合いの成果であり、宮本地区民には畏敬と感謝の念で一杯です。正直申し上げますと、当初「今回は優勝は難しいので

区の青壯年諸氏の優秀さ、又意気込みが風聞される折々に不安が潮の如く押し寄せ、半ば弱音や諦めが生じ、負けた時の言い訳までが頭をよぎる始末で、宮本地区民の底力を信頼し切れなかつた自分を恥じ入るばかりです。非力で未熟でもある私を自ら地区民として期待をして頂いている宮本地区民への恩に報いる意味でも、ここでもう「ひと頑張り」しようとマラソン出場を決意し、併せて、宮本地区民には、さらなる連帯、力の結集を呼び掛けるべく、また他の地区の皆様へは、ささやかな笑いと和みを提供するべく、誠に失礼ながら奇抜な衣装で走らせて頂きました。（少しは楽しんで頂けましたでしょうか？それとも震撼を買つたようでしょうか）宮本地区では数年前から自治会

内に体育員会を設置し、全戸参加の方針の基に運動会への取組みの充実に努めて来ました。また重点種目の事前練習（当日のレース中の不慮の事故防止策の一環と捉えてもおります。）を実施することも定着してきており、ここ近年のそうした取組みの努力が今回の成績に結実したものと理解しております。一人一人は微力でも、それを結集し互いの助け合いをより充実させることで大きな実践力が実現することを、いまさらながらに私も含め多くの宮本地区民が改めて学び取る事が出来たのではないかと思つております。また、今回は小学校との合同開催でもあり、少數化したとはいえる元気で活潑とした子供達の姿を堪能でき、活力を貰った心持ちになりました。また、子供達の屈託無い顔、明るい歓喜溢れる声を見聞きしながら、幼少の頃、多くの同級生達と一緒に心不乱にグラウンドを駆け抜け

ていた往時を懐かしく回顧しておりました。そして少子化に歯止めが掛かり、より多くの子供達の歓声がグラウンドに響き渡る日がやつてくる事を願わずにいるおられませんでした。ご高齢諸氏におかれでは年齢を感じさせない、若い方達に負けないお元気さで、競技に参加され、また応援においてはグラウンド一杯に響き渡るほどの声援を送つて頂きましたこと頗もしさにも感服させられ、同時に嬉しく感じ入りました。最後になりましたが、公民館を始めとして、開催に携わりご尽力頂きましたすべての裏方の皆様には心より御礼申し上げます。お陰様で老若男女取り混ぜて、初秋の一日をトラブルもなく愉快に過ごす事が出来ましたこと嬉しく喜ばしいことこの上ないと感謝しております。また、由良地区の皆様にはご健勝にて穏やかな一年を過ごされますようお祈りいたします。来年の初秋には、是非と

もお一人も欠けることなくお目にかかり、再び充実した一日を共に楽しく過せますことを強く願います。

「楽しかった運動会」

六年 稲垣卓哉

九月六日はぼくたちの小学校最後の運動会でした。

最初に始めて前に出て優勝旗返かんやラジオ体操をした感想は、すごくきんちようしたのもあるけど、これは六年生にしかできないことだからがんばろうという気持ちになりました。

つぎに徒競走をしました。すごくがんばって走れだし、おうえんをしてくれてうれしかったです。

そして二回あつた玉入れでは、楽しくできだし、盛り上がったのでよかったです。

午後の親子種目では、二人三脚をしました。待っているときはきんちようしたけど走つてみるときんちようしなくなつてせしたときよりもおそくなつてしまつたけど、それでもがんばつて最後までできたからよかったです。

そして地区の競技、リム転がしでは、少しあせつて、練習をしました。また、少しあせつて、練習をしましたけど、それでもがんばつて最後までできたからよかったです。

二色対抗リレーのときがきました。負けてしまつたけど、せ

いいっぱい走れたので気持ちよかったです。

最後の種目四部対抗リレーは、最後の力を出しきつて走りました。二位だったけどせいいっぱい走れだし、楽しかったのでよかったです。

最後にへい会式では、優勝は宮本だったし、二色対抗リレー

の優勝は赤チームだったけれど準優勝の賞状をもらえたからうれしかったです。今度は大人の人たちがしていたパン食い競走をしてみたいです。

小学校最後の運動会はうまくできだし、まとめるることもできたので最高の運動会でした。

競技の二人三きやくです。赤チームはゴールしていく、勝負も決まっていたけど、風にのり気持ち良く走れました。お父さんも

「気持ち良く走れたわ。」

とすつきりした顔で言つていました。初めて二人三きやくを家で練習した時は、全く走れずすごくこわくてこんなん無理や」と思つっていました。なので練習して良かつたと思いました。練習の成果をたくさんの人を見てもらつてうれしかつたです。

二色対こう全員リレーでは白は負けてしまったけどみんな一生けん命走つていました。差がついてもあきらめずに走つていました。私も最後まであきらめずに走る、できるだけ差をちぢめたいと思つて走りました。最高のリレーでした。

地区運動会と一緒にになって良かったことは、地いきの人に走る姿を見てもらつたことです。

見守り隊のおじさんやふ段す

れちがうおじさんに、「速かつたな。」と言つてもらえてうれしかったです。

小学校最後の運動会で負けたのはくやしかつたけど、自分の力を精一ぱい出せて最高の運動会となりました。



「がんばつた運動会」

六年 白 矢 翔 吾

運動会

六年 濑戸野 ゆう太

開会式がはじまってラジオ体操は、たくさん的人がいるのできんちょうして動きが大きくてきました。

徒競争は、一位になれなくてくやしかつたです。

ピント宮津節は、練習でやつたとおりにできたし元気にできました。

リム転がしは、うまくころがせて一番速くリムを渡せたのでよかつたけど負けてくやしかつたです。

親子種目の二人三脚は、みんなが差をひろげてくれたので気らくに行きました。

二回やるのは大変だったけどこけずに走れてよかつたし勝てよかったです。

二色対抗リレーは、練習でも

勝つたり負けたりしたのでどうなるかわからなかつたけどみんなしんけん走ってくれたので勝てました。

その後の中学生のリレーはすぐくはくりよくがあつてみんなはやくてすごかつたです。

四部対抗リレーは、どこが勝つか心配していたけど勝ててくれしかつたです。

今年も優勝できてうれしかつたです。

次も優勝できたらいいなと思いました。

玉入れは、いっぱい入れたけど負けてくやしかつたです。

一生けんめい走つてがんばりました。ぬかれたけど一生けんめい走つてがんばりました。

ピント宮津節でうまくおどれました。

九月六日に運動会がありました。ぼくはいろんな種目をやりました。種目の名前は、玉入れ、リムころがし、徒競走、四部たいこうリレーと赤白たいこうリレーとピント宮津節、二人三きやくをやりました。リムころがしでがんばつてあきらめんときいごまでやりきれてよかつたです。四部たいこうリレーで一生けんめい走つてがんばりました。ぬかれたけど一生けんめい走つてがんばりました。

最後の六年生の運動会なのでせいいっぱいがんばった。いい思い出ができました。

由良岳登山証明書発行数
平成21年1月1日
21年10月15日

835枚

(4月29日登山含む)

九月六日に運動会がありました。一番最初の出番はラジオ体操でした。まちがえずにうまく

でよかつたです。二人三きやくで二人でいきをあわせるのがむずかしかつたけど、さいごまで

いくてよかつたです。

開会式が終わったらすぐ徒競争でした。最後までがんばつて

「がんばつた運動会」

六年 中 西 拓 海

走つて一位になれてよかったです。

ぼくはその次にリム転がしに出て四部が一番でした。うれしかったです。

次はピント宮津節でした。すごくうまくおどれて良かつたです。

昼休みが終わつたら親子種目二人三脚をしました。赤が一位で来ました。お父さんとくまできて良かったです。次は二色対応リレーでした。

みんなががんばつてぼくのチームの赤が勝ちました。そして最後の四部対抗リレーは四部のたくや君とほのかちやんが出ていて結果は二位でした。すごくおもしろくて楽しいリレーでした。

へい会式ではぼくが優勝旗をもらいました。今までがんばつてきて良かったなあとthought。小学校最後の運動会はすごく楽しかつたです。

後日行われた府下大会出場権（奥丹後代表）を争つた間人（たいざ）中学との試合は、投手戦となり0対0のまま勝敗が決まりず抽選の結果、わが由良川中学校チームが府下大会に出場しました。半世紀以上前の一九五四年のことです。

さて、浦島太郎のようなお話です。あれから五〇年近く経つた二〇〇二年になつて、双方のメンバーから「0対0のまま決着のついていない試合の延長戦をやろうではないか」と言うことがなり、とんとん拍子で話がまとまりました。

野球チームが丹後地区で優勝し府下大会に出場しました。子供心に嬉しく誇りに感じたものです。その時のメンバーを今でも思い出することができます。

私が中学三年生のときは、今のが由良川中学（八雲校舎）と由良校舎で由良川中学のチーム

を編成して丹後や奥丹後のチームと闘いました。私はキャッチャーでキャプテンでした。幸いにも剛球ピッチャーに恵まれ、攻撃力もあつた我々由良川中学チームは、与謝管内中学校野球大会で宮津中学、栗田中学に勝ち、決勝戦の江陽中学戦でも勝利しました。

後日行われた府下大会出場権（奥丹後代表）を争つた間人（たいざ）中学との試合は、投手戦となり0対0のまま勝敗が決まりず抽選の結果、わが由良川中学校チームが府下大会に出場しました。半世紀以上前の一九五四年のことです。

さて、浦島太郎のようなお話です。あれから五〇年近く経つた二〇〇二年になつて、双方のメンバーから「0対0のまま決着のついていない試合の延長戦をやろうではないか」ということになりました。以降、今年（二〇〇九年）まで、会場を由良

八雲・間人の三か所持回りで毎年開催されており年中行事の一つになっております。試合のために、わざわざ遠く名古屋や京阪神地区から駆けつけてくれる元選手もおります。間人チームもその後参加人数が増え、ほぼ半々でゲームと懇親会を楽しんでおります。

お陰で丹後半島の間人と丹後由良が随分近くなりました。お互いに情報交換をしたり、カニのシーズンには親しくなったメンバーから間人のホテルの紹介を受けたりしています。ゲームと懇親会など僅かながら経済効果にも貢献できているのは・・・。

当時の中学生も今では七〇歳前後の青年(?)、再会を楽しみに日々健康維持に努めております。半世紀前にどちらかのチームが一点とつておれば、こんな出会いは無かったのにと思うと人生は面白いものです。この「延長戦」が末永く続くこと

を祈つてやみません。

(以上)



由良小学校グラウンドに集う両チームメンバー(二〇〇九年七月)

庄内由良親善訪問団をお迎えして

主事 磯田充亮

千四百年余の時空を超えて統けられる庄内由良との交流は、今年は受け入れる年でした。

崇峻天皇の第一皇子蜂子皇子が都を逃れ丹後由良浜から舟に乗り庄内由良に着いたという伝説をたどり昭和五十三年夏に庄内由良文化財愛好会々長佐藤儀助氏が丹後由良を訪問、昭和六十年には友好の浜の盟約を締結、「庄内由良・丹後由良友好の浜」宣言。鶴岡市宮津市両市長のメッセージを交換し、以後三年毎に交互に訪問団を派遣し現在に至っています。

平成十五年に訪問団を受け入れた際、当時小学六年の児童(現在高校三年)の感想文が「公民館だより」No.119(平成十五年十一月)に載っています。

平成十八年に当地から二十七名が庄内由良を訪問した際に受けた歓迎振りには遠く及ばなくても、心からのおもて成しで遠来の客を受け入れたいと考えたました。

前夜、庄内由良をバスで出発車中泊で当地丹後由良へ早朝九時に到着。自治会長佐藤吉彌氏を団長として児童十一名大人十六名が疲れも見せず元気な笑顔に接して一安心、休む間もなく

く小学校体育館で歓迎会に移りました。

相互の小学校紹介、宮津ピント節による歓迎と続き交流を深める一方、大人の皆さんは丹後由良の史跡散策に廻りました。

蜂子皇子舟出碑、山椒太夫屋敷跡や汐汲浜、身変り地蔵等山椒太夫ゆかりの地や、由良郷土館、由良の戸碑、森鷗外文学碑を訪ねました。

国民宿舎で昼食、休憩後バスで天の橋立観光に出発、ガイドは枠田輝子さんにお願いし、昔とった杵柄？奈具海岸から天橋立へと名調子に丹後由良の地元の皆も観光気分に浸っていました。

西国二十八番成相寺に到着した頃から天候が悪化、せっかくの展望台も濃霧に遮られ見ることが出来ません。

雨の中成相寺を参詣し笠松公園へと順路を辿り有名な「股のぞき」を体験し下山、観光船で文殊まで智恩寺を横目に丹後由

良へ無事帰着しました。

夜は、三年前庄内由良を訪問したメンバーも加わり懇親会を開催しました。会は思い出話、お国自慢に花が咲き三年後の再会を約束し散会となりました。

翌朝は庄内由良の皆さんは、京都を観光し帰宅の予定、地元関係者は由良神社前に集合して帰路の安全を願い見送りとなりました。

今回の交流で将来を担う子供達が互いの交流を深め合つたことが地域の発展に寄与するものと思います。

最後になりましたが今回の交流に際し井上宮津市長からメッセージが届き今までにない盛り上がりで成功裏に終了出来たことを喜こびたいと思います。

今後も長年にわたり両地区の友情ある交流が継続し実施出来ることを願います。

帰路につく出発の前には、会長さんをはじめ、多くの役員の

いつしか秋の気配を感じるようになりますが、御地はいかがでしょうか。貴職を始め役員各位、地区民の皆様方には、ご健勝であられますこと心よりお慶び申し上げます。

さて、先般私共訪問団一行が貴地区を訪問致しました節には、ご多忙の折にも拘わらず、早朝よりのお出迎えからお別れの時まで滞在中終始二日間にわたりご同行を賜り、ご案内から歓迎、交流会と行き届いた心温まるご配慮とお心遣いを頂き、又、その上大変結構な郷土のおみやげを頂戴し深く感謝申し上げると共に厚くお礼申し上げます。

お陰様にて訪問団一同熱い感動を胸に無事帰郷することが出来、心に残る良い交流会が出来たと喜んで居ります。

丹後の由良自治連合会会長

枠田 益一 様

平成二十一年八月二十八日
佐藤 吉彌

皆さん、又、大勢の地区の皆さんにお見送り頂きまして誠に有難う御座いました。心よりお礼申し上げます。貴地区的皆様方もにもぐれぐれも宜しくお伝え下さい。



日々諸々

飯澤 登志朗

由良診療所が昨年十二月に

か。

オープンして一ヶ年を迎えるようとしています。開設に携わってきました有志によるグループ「虹」では先日由良診療所堀川先生をお招きして話しを開きました。

地域医療に対する不安を解消し安心を与えていた堀川先生を始めスタッフの親切で好感度に満足している受診者は多いと思います。

最近は、かかりつけ医の紹介状がないと受け付けてくれない総合病院があるなかで、由良診療所の存在は地域にとって大きな影響があると思います。

夜間や休日救急等残された課題はありますが高齢化時代には避けて通れない医療問題であり地域と診療所が一体となる関係の維持が大切ではないでしょうか

地域活性化の一つとして市当局が提唱する診療所を中心として、豊富な自然環境を生かした療養ゾーンの構想は注目するものがあります。

自然を生かした活動には、現在進行中の京都府立大学による学外演習があります。平成十八年八月から始まり今夏で四ヶ年を経過しました。

由良地区の歴史的、自然的資源を生かした演習は地域の植物や古い民具農具調査から始まり住民からの聞き取り、生活体験等巾広い活動が続けられています。

また当日は大学専門教授から周辺で採取した草花や昆虫等の標本を見ながら説明を受けていましたが、平素何気無く見過してしまった自然の生物を子供たちは手で触れ、目で確かめる等生きた学習が出来たと思います。

その際学生のひとりと立話のなかでこんな意見がありました。「今回は栗田のマリンピアを宿泊場所としたが本当はどこ寝でも良いから地元の人達と交流の時間がほしい。地元の人の話を聞きたい。由良で収穫された農作物を食べたい。」こんな話題が出てきました。彼女は台湾からの留学生で日本語は十分に話せませんが彼女の想いに応えられる受入れ態勢を地元として確保する必要があると痛感しています。



次に九月に開催された由良地区運動会についてです。

今年から地区運動会は由良小学校と合同開催となり、非常に盛り上がり楽しい一日を過ごすことが出来ました。過去の運動会では競技上のルール説明が長引き、また判定でもめる等楽しむより競う方向が随分見られましたが今回は良識ある地区的皆さんの協力が得られ予定された時間内に終了となりましたが学校教職員、大会役員諸氏の努力に拍手を送りたいと思います。

一部種目として無理があつたり、もう少し高齢者の出場種目があつたらとの意見もあるようですが、これらは次回開催の課題として関係各位に委ねるとします。

高齢者といえば九月二十六日に開催の由良地区敬老会の話題。

まず今までの敬老会では初めてだと思いますが、めでたく米寿を迎えた方々が十三名、

確かに長寿社会とはいえども、その矍鑠なる姿勢に脱帽です。

自ら先の戦争を体験され、また戦後は郷土の復興に先頭に立ち尽力された方々に敬意を表わすとともに今後の幸多かれと祈念したいと思います。

また最近各自治会毎にサロン活動としてグループ作りが盛ん

ですが今回の敬老会に花を副えたのは浜野路地区の夕月サロンではないでしょうか。日頃の充実した活動が垣間見られ、その演出は見事でした。

新聞やテレビで見かけますが定年依存症といわれる病気?、仕事人間として一生懸命に勤めた人程なりやすいとか、定年を迎えて会社から離れて家庭人間となつた途端無氣力となり酒に溺れる日々となる人が増えてい るようです。

敬老会も予算上の都合から年齢制限を設けられているようですが年々出席者が減少しているように思います。

確かに長寿社会とはいえども、その矍鑠なる姿勢に脱帽です。

自ら先の戦争を体験され、また戦後は郷土の復興に先頭に立ち尽力された方々に敬意を表わすとともに今後の幸多かれと祈念したいと思います。

席上、謝辞を述べた由良松寿会長の言を借りるまでもなく、健康新聞の言を借りるまでもなく、健康新聞の言を借りるまでもなく、健康であることは誰もが願うことであり、それを叶える手段の一つとして人中へ出る、人と交わることは大切です。

忙しいから…やりたくない。ひとりが気楽…等々個

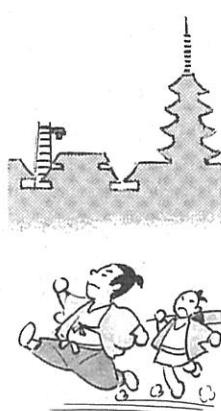
的な理由はあると思いますが、色々な場所で色々な人と接し、パワーを分けてもらい、やり残した仕事がないよう日々過ごしたいものです。

なお、文中そう入の写真は、山田昭氏、糸井治孝氏から拝借したものです。



まんが 新宮涼庭伝

みもり あきら



江戸時代一八二〇年頃、京の町を丹後から来た鬼が走る。

丹後大江山の鬼にちなみ「鬼国山人」と号した由良出身の蘭方医、新宮涼庭先生である。

一八一九年、京都に蘭医として開業した涼庭は、午前中に百数十人の病人を診察し、午後から約五十人の患者を往診する。

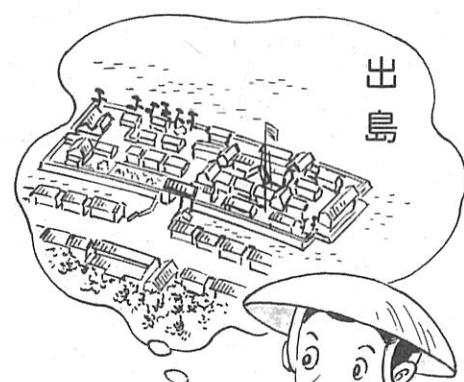
従者を連れ患家を回り異状が

なければ次の家へ走り、途中、屋台等で軽い食事をすませると往診を続けて、帰宅するのは、いつも夜になつたという。しかし重病の患者には一日に数回も往診し時には徹夜で看病して、たちまち名医と評判になつた。

一七八七年、由良の医師新宮道庵の長子として生まれた涼庭は福知山藩医の伯父有馬涼築より医学を学びました。

十六才の時、従兄有馬丹山と共に江戸に遊学し二年後、由良で漢方医として開業します。

日々精進し病客も増えますがある時、宇田川玄隨の「西説内科撰要」という本を読み、西洋医学の精確、優秀さに驚いて、蘭学修業を決心しました。



一八一三年、長崎に着いた涼庭は、通詞（通訳）吉雄如淵に師事して勉学に励みます。その熱心さをオランダ商館長ドゥーフに認められて、蘭館付医師に抜てきされました。

一八一八年、長崎での修業を終えて帰郷した涼庭は、翌年に京都の室町で開業しました。

涼庭、三十三才、京の町を鬼が走る時代の始まりです。



涼庭は深夜の急な病人にも、快く診察したといわれ、多忙な間に著訳も多く手がけて、医名も高くなり、蓄財も増えますが、いたくを好まず、南禅寺畔に順正書院の建立を計画します。

門下生と共に木を伐り建築の指図をして、一八三九年、順正書院が設立されました。

順正書院では八学科を設けて医学の教育を行う他、多くの書物が集められ、勉学の志のある者は入場随意、書物を公開し、才能があつても、貧困の故に挫折する人の多いのを惜しみ、講師を招き講演会を開き、一般市民にも無料で聴講させて、人財の育成につとめました。



シーボルト



緒方洪庵

江戸参府の途中に京で涼庭と面談し、「西洋学問の親愛者にして京で最も行なわれる医師の人」と、高く評価したという。

涼庭は医学だけでなく、経済にも通じ、江戸時代後期、財政難に苦しむ大小名に、私財をして財政改革を援助しました。

その功績を称えられ、正五位が贈られます。

伝記として

一八八五年（明治十八年）

「鬼国先生言行録」新宮涼閣著

一九六八年（昭和四十三年）

「新宮涼庭伝」山本四郎著

ミネルヴァ書房

が刊行されました。

現在、舞鶴市北吸に建つ、舞鶴メディカルセンターの入口に順正書院に建立された、新宮涼庭像

涼庭は深夜の急な病人にも、快く診察したといわれ、多忙な間に著訳も多く手がけて、医名も高くなり、蓄財も増えますが、いたくを好まず、南禅寺畔に順正書院の建立を計画します。

門下生と共に木を伐り建築の指図をして、一八三九年、順正書院が設立されました。

その頃「新撰洋学年表」には「京都に新宮涼庭あり」

大坂には緒方洪庵あり」と、福沢諭吉や大村益次郎が学んだ「適塾」を開いた、緒方洪庵と並び称されています。

一八二六年にシーボルトが、江戸参府の途中に京で涼庭と面

て京で最も行なわれる医師の人」と、高く評価したという。

涼庭は医学だけでなく、経済にも通じ、江戸時代後期、財政難に苦しむ大小名に、私財をして財政改革を援助しました。

順正書院には大名諸侯、学者や、文人が多く集まつて、賑わい京の名所となりました。

一八五四年、由良出身の名医涼庭は六十八才で病没しました。



吳秀三著 平凡社

「京の医学」川端眞一著 人文書院

「京の医史跡探訪」杉立義一著 思文閣出版

庭の銅像が置かれています。
参考文献

「新宮涼庭伝」山本四郎著 ミネルヴァ書房

「シーボルト先生その生涯と功業」



新宮涼庭像

窮乏の学生も三年目を迎えた

濱野路
大森
孝

の御田には甘い大根の煮込みも
まざつていたようと思う。こ
で一息つくのだ。

かなり牛田東區迄は距離があつて、夜があると広島女学院の生徒達の通学路となる。この学校も原爆で焼き払われて、

とかが登り坂で、長い道程で
あつたような憶えがある。西条
じょうじょう 過ぎて、八本松駅辺りへく
ると、夜行列車は速くなつて、そろそろ降りる用意を気にする
ようになつてくる。
安芸中野あたりで、夜が白ん
でくると、緊張して、降り損ね

この堤の奥に付属農場をもつていたので、そんな山田の奥に仮設の校舎を設けていたのである。露出した窪みのある裸土の道を、駅から教師も生徒たちも通っていた。昭和二十四年当時、通学は通常歩くのが大方の日課であった。

(二) 専門への回帰とそれを達成するために。

広島駅を出て、西の方へ歩みを移すと、件の列車が長々と爆音を曳きずつて横川駅の方へ進み去つて行く。大きく蛇行して、“牛田”への方向からもずれて行く。

道を踏みしめながら、口をついて出るのは、当時の流行歌“夜のプラットホーム”だつた。歌い乍ら、二葉山をまわつて、明けて行く空を見上げて歩いたものである。

暁の帰り道は、櫻並木の堤の
道で、右手は川が流れていた。

課題であり、いわゞ苛酷な壁でもあつたろうか。それ迄の操舵を一杯、取舵にきつて、リアリストとして、日々の生活を一変せざるを得なくなつた。生活^{たつき}の凡てにわたつて、緊縮きんしゅくと無駄を省くことが求められてきた。

（一）関西と訣れて、安芸の首へ。

学して、卒業する迄、何度も、
つた列車の旅であつたが、郷
を出てから、途中、京都市や
急沿線で友人の金加行雄君
、加藤吉宏君とも語らいの時
ど場所をもつことが得られて
た。大阪（梅田）駅のコンコ
で、西の方へ行く夜行列車に
りこむまでに、思いを醸した。
んな学友の先進的な営みに後

スで、西の方へ行く夜行列車に乗りこむまでに、思いを醸した。そんな学友の先進的な営みに後髪をひかれ乍らも断ち切るよう決然と乗りこむのだつた。

訣別を何度も重ねながら、コンコースでしやがんで、九時頃の博多へ向う夜行列車（各停）の人となる。ここまで、関西にこだわったのは、私の負荷であり、青春の秘密であつた。

山陽本線の旅は夜通し走りつづけて、単調であつた。兵庫県内も長くて、加古川、姫路、相

生と来た。たまには東海道線を行きたいなアと欠伸をし乍ら岡山県も夜の旅が続く。上郡や和氣は停車時間も余裕をもつており、まどろんでいると窓の外は笠岡を駅員が連呼している。妙に笠岡駅が印象に残った。仮眠をつづけていると、糸崎、三原と続いた。忘れられない三原駅のプラットホームでは立ち食いのできる御田コーナーが盛り上っていた。

掛声も賑やかに、『えー関東だき!! 関東だき』と暗い中を、とりわけ、風の冷たい寒い夜など、乗客はどうつと、降りて、フーフーしざしをして、煮込みを頬張る。たしか糸崎駅が車両替えかで少し停車が長い。私たちは本線を『広島』へ向うのだが、人ごみの中で、こんにゃくやはんぺんを熱い煮汁の中から引きたまには東海道線を行きたいなアと欠伸をし乍ら岡山県も夜の旅が続く。上郡や和氣は停車時間も余裕をもつており、まどろんでいると窓の外は笠岡を駅員が連呼している。妙に笠岡駅が印象に残った。仮眠をつづけていると、糸崎、三原と続いた。忘れられない三原駅のプラットホームでは立ち食いのできる御田コーナーが盛り上っていた。

生と來た。たまには東海道線を行きたいなアと欠伸をし乍ら岡山県も夜の旅が続く。上郡や和氣は停車時間も余裕をもつており、まどろんでいると窓の外は笠岡を駅員が連呼している。妙に笠岡駅が印象に残つた。仮眠をつづけていると、糸崎、三原と続いた。忘れられない三原駅のプラットホームでは立ち食いのできる御田コーナーが盛り上つていた。

とかが登り坂で、長い道程で
あつたような憶えがある。西條
過ぎて、八本松駅辺りへく
ると、夜行列車は速くなつて、
そろそろ降りる用意を気にする
ようになつてくる。
安芸中野あたりで、夜が白ん
でくると、緊張して、降り損ね
ないようせねばならぬ。

広島駅を出て、西の方へ歩み
を移すと、一件の列車が長々と爆
音を曳きずつて横川駅の方へ進

この堤の奥に付属農場をもつて
いたので、そんな山田の奥に仮
設の校舎を設けていたのであ
る。露出した窪みのある裸土の
道を、駅から教師も生徒たちも
通っていた。昭和二十四年当時、
通学は通常歩くのが大方の日課
であった。

もう少し経緯について触れるなら、最初は岩瀬町に本社のあつた『大江山治金工業の現状と将来について』調査すること。『北廻り海運の歴史と、それで栄えた港々について』。等々、前学年の辺りで試みられたものの、試行錯誤の域を出ない、テーマに悩んでいた。

担任の西村嘉助教授が見かねて、『ニュージーランドの地誌』といえる分厚い概論書を提供してくれた。この書物を訳して、わが国との相似点を抜き出して比較してまとめるようにといふように指導して下さった。(彼は先年“東北大学”から、本校へ転任された、学界では論文を発表、氣鋭の研究者だが、格式ばらない、くだけた人柄の教官であった。)

さア、それ迄の脇の甘い?デイ・ツタンテイズムの滲みこんだ“遊子の心”は剥ぎとらねばならぬ。緊樺一番、否応なしにまさに正念場に立つに及んだ。食べるための自炊も朝と晩

なら、最初は岩瀬町に本社のあつた『大江山治金工業の現状と将来について』調査すること。『北廻り海運の歴史と、それで栄えた港々について』。等々、前学年の辺りで試みられたものの、試行錯誤の域を出ない、テーマに悩んでいた。

俗に言う“尻からげ”で近くの桜並木堤防に板を敷き並べた任の食材店へパンを買いに往復した。(コツペ状のパンを売っていた。よろづ屋で、近傍の主婦達が顧客でよく流行っていたよう。)

しかし、急迫した日毎夜毎は卒論の達成を念頭におき乍ら、他方では週に何時間かの講義の為に、“間借り”から櫻並木の長堤を国鉄広島駅へ歩いて出て、駅から宇品線で比治山の麓の出汐町の校舎迄の遠出(中國人民解放軍の長征みたいだな!!)疲れて帰つてくる。英語書籍の翻訳作業が待つている。たゞならぬ日常生活が普通になつてくると、戦場での生活もこんなのかな!

時に隙をつくつてはならぬ。(当持に隙をつくつてはならぬ。(当

そんな生徒としての“時間貧乏”的追い込まれ人生の中でも困つた私を支えてくれたのは、隠居の西本さんの爺さんの声かけであり、何気ない世間話であつた。『ありやア!!』(あれは)『いけん、よ

るの、昭和二十三年当時からあつた。

もう一つは、買いつけの櫻並木堤に板を敷きつめて急場拵への食料品店の主人の快活で解放的な挙措、この丈夫さにも元気をもらつた。

堀江君(旧海兵七十八期生徒)は理科一部で、化学科で卒論は提出したらいい。地深の方では愛媛県の“新居浜”出身の加地君は早くから取組んでいた別子銅山を調査研究して卒業。(神戸市の夢野台高校へ就職。野球部の監督もして順風満帆。)彼にとつては、広島県は乃美尾村も、学校もさして身構えねばならぬ土地ではなく、比較的手慣れた感じで卒論も焦げつかずには遅滞はなかつたようである。惜しむらくは偉才は定年を待つことなく他界した。

暗に敬意をもつてくれていることが嬉しかつた。先述したが、
る“高師”的な生徒さんだな。と
しむらくは偉才は定年を待つことなく他界した。

合掌。
(平成二十一年二月五日記)

広島という土地柄は、(島嶼部の住民も含めて)大きな田舎と、都会とがあわざつている感じ。プロ野球で広島カープを声援す

若狭越前海岸を歩く（No.2）

港四方俊一

石清水八幡宮（京都府八幡市八幡町高坊、祭神誉田別命・比売大神・息長帶比売命の三神）は貞觀二年（860）創建され朝廷、武家に崇敬され源氏の氏神となつた。故に石清水八幡宮参詣となると大行列で物物しいものであつた。それは守護大名にとつて一番の誉であり家臣にも経費を惜しみなく費い絢爛豪華なものであつた。二代目義貫は十才で家督し、守護代には、伊賀入道、三方範忠、延永土佐守、延永益信、延永益幸が努めることになる。一色義貫は丹後守護在職中、幕府侍所の頭人（責任者）、山城守護も兼たのである。この間、將軍は足利義持→足利義量→足利義教と変つていった。さてさて、「一色氏と武田氏の争い」は「丹後と若狭の争い」であり同じ「源氏」同志の争

いであり、争いは次の様にしておきた。永享二年（1430）七月、將軍足利義教（一三九四～一四四一）は室町幕府第六代將軍であつたが天台座主から還俗した將軍であつた。例により拝賀の供に一番を望んだが一色氏は許されず、遂に一色氏は病を口実に供を拒否した。足利義教は处罚を畠山満家（將軍足利義教を擁立した管領）らに諒つたが諫止されたため、一色義貫は辛じて处罚を免れた。翌年、幕府内で地位の回復、再び政治上、大事の諒問に預り、室町御所の造作費賦課にあたつては、四職家の一つとして、一ヶ國大名の五倍にあたる千五百貫文を負担した。永享十二年（1440）に大和（奈良県）へ越智惟通（奈良県高田市郡越智に住んだ豪族）討伐に出陣中、

武田信栄のため、鴟（奈良県桜井市外山）で謀殺された。大和の陣にあつた武田信栄は將軍足利義教の命を受けた。同じく大和（奈良県）に布陣していた足利一門衆であり若狭国、三河国、丹後国守護の一色義貫を討てとの指令であつた。室町幕府の体制確立を意図としていた足利義教は先代將軍足利義持に引き続き絶対権力の保持を狙つており、諸国守護大名の後嗣問題にまで口を出し、赤松満祐守護（播磨備前、美作）の弟、赤松義雅の領地を召し上げるなど、理由の無い横暴さが目立つた。元僧籍（青蓮院天台座主）にあつたとは思えない執拗殘忍な性格の持ち主だつたらしく意に添わぬ者の処分は常軌を逸しており、それらは一門衆、公家、女房衆に迄及び容赦しなかつた。従つて彼の命令は絶対的であつた。世に恐怖将軍と称されて、安芸（広島県）の守護武田信栄は永享十二年五月十四日、一色義貫

の陣所を訪れ「明日、將軍家より賜つた品をお目にかけ、永陣の慰めにしたいから是非我が陣へお越し下されたい」と言葉巧みに誘いかけた。書状もしくは使者を持つての申し入れなら鬼も角、一軍の将が自ら出向いての要請では断ることもできず、義貫は了承したのであつた。諸大名に対する將軍足利義教の不自信は一門家に対しても例外でなく、このことは既に一色方でも察知していたらしく、陣内は騒然として、一色方の家来は一色義貫に畏だから応じないようになると止めたが「武将としての約束は破れない」として武田信栄の陣所に出向いたのである。尤も、まさかとは思つていたのであるう、たかが安芸半国（広島東部）の分郡守護の子息が、丹後、三河、若狭守護の大々名を擊つとは夢にも思つてはいなかつたであろう、それ程格式の違う相手であった。従つて、一色義貫は家来の羽田（三河以来

の家臣) 中山、三方 (若狭守護代) 延永 (丹後守護代) 下笠などの騎馬衆の他、随行の者わずかを連れ昼前に武田陣所に到着した。武田信栄は自らこれを出迎え座敷へ誘つたという、ところが着座しようとした時、戸障子がサッと開かれ、「上意」の掛け声とともに武田方が一斉に切り込んできた。このことを予測していた一色義貫は県命に抵抗したが遂に力及ばず自害したと云う。さて、一色被官らも果敢に抵抗しており、羽田は武田方の栗屋越中守と差違え、同じく中山民部は武田方の逸見繁経と戦うなど、たちまち武田陣所は修羅場と化した。その他は庭中へ討出て討死する者あり、かれこれ十七人が生害した。又、残る者は一同に切腹四六人に及んだ。如何に將軍足利義教の命とは云え、明らかに暗殺であつた。京都では翌日、同族の一色教親 (一色義貫の弟持信の子) に命じて室町の義貫邸を襲撃さ

せ骨肉の争いを演じた。この結果、一色義貫の所領であつた若狭国を武田信栄、三河国は細川持常、丹後国、伊勢国は一色教親に配分された。これによつて安芸分郡守護にすぎなかつた武田信栄は一国守護となつたのである。しかし、一色謀殺の時、一色義貫の被官三方忠治若狭守護代の一太刃が武田信栄を疵つけていた、にもかゝわらず武田信栄は新守護として若狭国への入国を果したのであつた。そして七月二三日には、受けた刃疵が悪化して若狭国で他界 (享年二八才) し、若狭守護としては僅か二ヶ月余と短かつた。後日は若干二一歳の弟信賢が継ぎ、安芸分国、若狭守護となつたが安穩とは云えなかつた。一色氏所領としての支配の影響は大きく若狭国一円にその一党が散在し武田勢を脅かすのであつた。又、丹後国を攻めるも一色勢の残党は強く丹後国中郡吉原城 (京丹後市峰山町吉原) で防

ぐ等、丹後支配は仲々困難であった。凶暴な將軍足利義教は嘉吉元年 (一四四一) 六月、赤松満祐 (播磨、加賀、山城、攝津、美作守護) によつて宴会に招待されて誘殺された。赤松満祐は播磨に逃げるが幕府により追詰られて自害する。(嘉吉の乱) 故に、一色家三代目は一色義貫の弟、一色持信の子の一色教親が二六才で継ぎ、丹後の一部と伊勢の守護となつた。細川時綱が三河国、武田信栄が若狭国 (加佐郡の一部を含む)、尾張国知多を分与されたのである。こゝから丹後と若狭の争いが延々と続き加佐、与謝、中郡、宮津は争乱の中に入り、宮津の普甲峠は戦場と化した。一色義貫の家臣の抵抗は止まず、嘉吉二年 (一四四二) 十二月には守護代延永直信が接收された堀川邸に一色教親を襲うことを謀り、文安元年 (一四四四) には守護代延永直信が接収された。丹後守護を与えられた。後守護として支配していた。一色牢人は徳政一揆 (売買した土地、質入れした土地の売買に係

し宝徳三年 (一四五二) 十一月二六日、教親は三三才の若さで頓死するのである。僅か六年の守護であつた。さて四代目であるが將軍足利義教の命で討たれた一色義貫の子「義道」 (父義貫が討たれた時、西国へ流された四人の子の内の一人と思われる) 丹後、伊勢半国、三河、尾張分郡守護となつた。守護代は延永直信であり、直信の母は日ヶ谷 (宮津市日ヶ谷) の母は日ヶ谷 (宮津市日ヶ谷) の松田家頼の娘である。城は宮津に在り守護代は延永直信が在城した。丹後の城は海辺に在り三千人の家臣が居たといふ (大久保山城か? 当時分宮神社迄が宮津湾であつた) この時代、若狭国では一色牢人が若狭国に攻入うとしていた。若狭守護武田信賢、国信 (一四六九) 一四七四) は丹後守護を与えられながら名目のみで一色氏が丹後守護として支配していた。一色牢人は徳政一揆 (売買した土地の売買に係

る物の返還、関係書類の破棄を求めたもの）と結んで各地で蜂起したり、丹波に逃れていた一色牢人が若狭に入ろうとしていた。『逸見氏』一族は無名に近い存在であったが安芸の武田被官として存在し、若狭との関わりは永享十二年（一四四〇）五月十五日大和陣中において一色義貫を謀殺した時に初めて出て来るのである。そして嘉吉三年（一四四三）頃、逸見氏は若狭国へ入国している。当時若狭国三方郡は武田家臣熊谷氏、遠敷郡は山県氏、内藤氏、香川氏、小浜は栗屋氏、大飯郡佐分利には武藤氏が配置されていたので若狭を管轄として逸見氏が高浜に配置された。そして「応仁の乱」（室町末期一四六七）一四七七将軍足利家の相続問題に係る京都中心の大乱）では隣国丹後守護一色氏が西軍に属していたため、逸見氏は高浜を拠点にして防備を固めていた。そして「応仁の乱」における逸

見党は東軍の副将であった武田信賢の主力部隊として活躍した。この頃、若狭、安芸両国被官人中、逸見、栗屋が双璧であり、かなり強大な戦闘集団を構成していた。京都合戦には武田方大将として「逸見弾正忠繁経」が参加しており、安芸、若狭の勢三千騎とある。そして丹後守護一色氏は西軍に属していたため、逸見氏は高浜を拠点として防備を固めた。京都市街戦は応仁元年正月（一四六七）より始まり、五月に入つて本格的な合戦が行われた。武田信賢、国信、元綱の三兄弟は際立った戦闘ぶりを見せており、ところがこうした中に京都合戦の恩賞として応仁二年（一四六八）、西軍一色義直の領国丹後守護が武田信賢に与えられたのである。一色氏にとつては全く迷惑な話であつたが、武田氏は直ちに軍勢を整え同年四月、逸見駿河入道（山名氏家臣）桓屋（カキヤ）平右衛門（エモン）普甲（ゴウ）を率いて丹後守護官（カキヤイズモノカミ）宗見（真正）を大将として青江。

貫所ら武田氏家臣らが丹後へ進入を開始した。最つとも丹後一国を武田氏に与えられたのでは無く、一群は細川政元に分与され、その為、細川一族の天竺孫四郎等も同時に入国、丹後は武田・細川連合軍に攻撃され一時略制圧されたと云う。丹後侵攻軍の総大将が逸見駿河入道宗見であった。逸見軍は一軍が京都（逸見繁経）から丹後へと転戦しており、この頃、若狭最大の軍事力を持つていたことが伺える。武田軍の主力は逸見軍団であった。京都合戦では西軍越前守護斯波義廉被官朝倉孝景（弾正左衛門尉）が勇猛であり、しばしば武田軍と合戦している。若狭国は東を越前国、西を丹後国に挟まれており戦力の増強が必要であった。逸見宗見等武田軍は丹後国内において活発な動きをしているが、一色方も西軍の大将但馬國山名氏に援助を求める、山名氏家臣桓屋（カキヤ）平右衛門（エモン）普甲（ゴウ）を率いて丹後守護官（カキヤイズモノカミ）宗見（真正）を大將として青江。

山寺（サンジ）（宮津市小田五輪ヶ尾、寺屋敷集落からスキー場一帯、当時百ヶ寺あり）に立籠り必死の反撃に転じた。普甲山は宮津（丹後）から丹波へ抜ける街道の途中に在つて海拔四〇〇メートルの高所である。峠から北東遙かに「若狭富士」と呼ばれる青葉山が望まれ、眼下に宮津湾が広がる眺望の見事な所であり、天然の要害であった。一色側はこゝに山城を築き拠点とした。武田（逸見）・細川連合軍は四方よりこれを攻撃したが落すことが出来ず、細川方は大将天竺孫四郎が討死し、細川政元は一宮左京亮を替わりとして派遣している。これ以後丹後戦線は各地に波及し局地戦が展開されて武田氏・一色氏の宿怨の抗争が一世紀に渡り繰り返されることになる。文明二年（一四七〇）七月十九日、京都で戦っていた逸見繁経は山科の戦闘において討死し東軍は多大の損失を受けた。この年の九月、若狭の武田方逸見（真正）を大将として青江。

見氏は前年に続き再び普甲山を攻めるも退くことになる。翌年六月二日、東軍の副将武田大膳丈夫信賢は五二才で逝去している。この年は西軍の朝倉孝景が守護代理でありながら將軍足利義政の誘いで東軍に寝返り越前守護についたのであった。更に文明五年（一四七三）西軍山名宗全、東軍細川勝元が死去し、天下の形勢は和平に向って進んで行つたのであつた。文明六年（一四七四）四月東西和睦が成立し、応仁元年（一四六七）以来八年に及ぶ大乱は一応の終結をみた。丹後戦線に在つた武田・細川連合軍も同様でこの和平によつて武田軍に与えられていた丹後国は文明六年（一四七四）五月十五日一色氏に返還されることになり武田・細川両軍の退去が要求されたのであつた。ところが応仁二年（一四六九）以来、七年間丹後攻略を進めてきた逸見軍は承服できず幕府の返還命令を無視してなお丹後に

在陣したのであつた。一方、一色側は好機到来とばかり俄然勢いを盛り返し必死の反撃に打つて出た。激しい攻防戦は四ヶ月も続いたが若狭国からは援軍を送らなかつた。と云うのは、東軍代表の一人として和平に署名した若狭国の大庭国信が幕府の命に背いて丹後侵略を進めたが、丹後戦線の武田・細川連合軍は既に孤立無援であり、文明六年（一四七四）九月、遂に武田軍方総大将逸見宗見は「上山田城」（野田川町上山田）で一色軍方に囲まれ自害し果てたのであつた。若狭国守護武田国信も大打撃を受け、逸見宗見を見殺しにしたと云うことから悲しみの余り落髪遁世（丸坊主になり出家）してしまつた。逸見宗見、逸見繁経兄弟の時代、つまり武田信賢、若狭入国以来、応仁、文明の乱頃迄が逸見氏の尤も強大な時代であつた。故に高浜町資料館の前には逸見氏銅像が建つてゐる。逸見宗見の自害

の後は子息、三郎国清が継いだが延徳二年（一四九〇）六月二日、武田国信が亡くなり、その後を武田元信が継ぐと、逸見氏に替つて栗屋氏の左衛門尉親栄が実権を握る様になつた。それ以来、逸見氏と栗屋氏との対立は深まりしばしば抗争を繰り返した。そして丹後国では一色義春は武田国信が亡くなる前の文明十六年（一四八四）九月四日、十九才の若さで京都邸で没している。若くして一色義春が亡くなつたので義直（四代）の次男、一色義秀（幼くして南禅寺に入り僧籍に在つた）が丹後国、伊勢半国の守護となつた。この間、越前国の朝倉貞景、近江国の六角高瀬、若狭国武田元信の間で紛争があり、各々が鎮圧したりした。明応三年（一四九四）一月越前國の朝倉光玖が死去、朝倉勢も河守（大江町）から元伊勢、大侯、辛皮経由で宮津城（大久保城）を攻める。この時上宮津城（上宮津小学校北側）の小倉一族が討死、若狭勢優位に丹後各地を占拠していつた。一色義

父子を助けて丹後を攻め普甲山で一色方と合戦するのである。この時、普賢堂が消失し、一色義秀ら十三人が普甲寺で生涯し、義秀は二八才の若さであつた。一色義直の次男義秀が戦死した。その孫、一色義有が三河国から迎えられ養子となつて家督を継ぐことになつた。そして七代一色義有は丹後守護となり、武田信親、元信と争うことになる。若狭では文亀元年（一五〇一）武田元信家督、信親は隠居し、元信若狭守護となつた。そして永正三年（一五〇六）細川澄元は武田元信を助けて加佐郡八田城（舞鶴市建部山）を攻めた。守護代逸見駿河守は由良川を渡り河守（大江町）から元伊勢、大侯、辛皮経由で宮津城（大久保城）を攻める。この時上宮津城（上宮津小学校北側）の小倉一族が討死、若狭勢優位に丹後各地を占拠していつた。一色義

有は防戦に防戦を重ね成相寺を

武田元信に占拠された。一色義有は阿弥陀ヶ峰城と今熊野城（両城とも成相寺の下に在る）に籠り合戦するのであつた。所が武田の頼みとする細川政元が養子の細川澄之の家臣、香西元長に殺害され武田勢は勢を失くして行くのであつた。それは永正四年（一五〇七）六月二六日であり、形勢は大きく変化した。武田元信は成相寺に火を掛け日置（宮津市日置浜）の浜から若狭へ向けて脱出したのである。大将が逃亡すると残された家臣は各地で混乱し散々の体で逃げる者有り自刃する者有りであつた。その後一色義有は府中館で永正九年（一五一二）病没した。

二六歳の若さであった。翌年武田元信の父親信親没す。永正三年に始つた武田元信の丹後合戦で逸見一族の鬱憤は頂点に達したらしく永正十四年（一五一七）丹後守護代延永修理進春信に呼応し、遂に反乱を起したのであつた。次号に続く

ちいーと知つ得

金毘羅さんの常夜燈

脇の金毘羅神社は文久二年（一八六二）に海上安全を祈願して祀られたが、その境内に建つ常夜燈は昭和四十年代まで宮守によつて毎夜灯明が点されていました。古くから伝えられた菜種油に灯芯を使つて明かりを点しています。



平成二十年度 人権標語入選作品

由良小学校 三年 岡本遙奈

しあわせは みぢかな人の えがおから

由良小学校 六年 大森夢

勇気ある その手をだれかが 待つてゐる

今年の梅雨は、長雨がいつまでも続き盆前になつてやつと夏らしい天候になり、九月下旬になつても残暑が厳しく続き温暖化を顕著に肌で感じた夏であった。雨のため涼しくエヤコンの世話になる回数が減りCO₂の削減には大いに貢献ができた。

農作物、特に稻作は平年の「やや不良」に終わり不安が残つた。地区内は、長雨でも洪水土砂崩れなどの被害が無かつたのは幸いであった。私たちを取り巻く環境が少しづつ変わつてきているのを感じる。あのイチロー選手がまた偉大な記録を達成した。九年連続二〇〇本安打。一〇八年ぶりに記録を更新した。オリックスに入団時のコーチは「貪欲さと負けず嫌いが偉業達成の要因である。一軍と二軍を行ったり来たりいたが、なにくそといふ悔しさをプラスにできた」とたえていて、と新聞に紹介されている。ファンの一人としてケガに留意し記録を伸ばしてほしい。（枝川）

編集後記

2009 (H21) 11月

